

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390800047		
法人名	有限会社 きび薬品		
事業所名	グループホームきのじょう		
所在地	岡山県総社市北溝手55-1		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosoCd=3390800047-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、自然に囲まれた場所に立地しており、入居者様にとって落ち着ける環境であると考えています。我々のモットーは高齢者の尊厳であり、職員と入居者が慣れ合いにならぬよう言葉遣いには十分注意しながら関わりを持っています。一日の流れはご自分で決めて頂き、自分がやりたいことを自由にできる空間づくりを目指しています。レクリエーションも強制的には行わず、職員は寄り添いながらアドバイスをしたり一緒に楽しんだり、家族同様のお付き合いを心掛けています。「自分の親、又は自分自身が住んでみたい」と思えるような事業所を目指し、一つ一つの問題点が勉強と思って努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を遮るものがない田園地帯に事業所は在り、年数を重ねるごとに地域との自然なおつきあいが深まっている。管理者の一貫した介護への姿勢を全職員が理解しており、職員が一体となって「人としての尊厳」を大切に、質の高い支援の実践と継続を目指している。介護は究極のサービスであるとの認識から、「接遇」の徹底がなされ、繊細な心遣いが職員に浸透しており、小さな気付きも見逃さず情報共有して、サービスの向上へ活かせるように努めている。利用者はそれぞれの個性が尊重された、自分の持ち味に添った支援提供を受けており、ゆったりと穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく、穏やかな生活が出来るよう、常にご本人やご家族の立場に立って支援するよう心掛けている	「人としての尊厳」を大切に、利用者一人ひとりが自分らしく暮らしてほしいとの管理者の信条を全職員が理解して、日々の支援に取り組んでいる。話し合いを心がけ、思いの共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の年間行事への参加や、地域代表の方との普段のお付き合いを心掛けている。又、ご近所様から季節の風物詩などを頂戴したりしながら、職員・入居者共々交流を大切にしている	開設当初から協力して下さっている地域代表の方が、地元行事の案内や会議への参加、年末のしめ飾り作りなどをして下さっている。年々地域の理解も深まり、自然なおつきあいがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて、地域代表の方やご家族等に対して、専門的な勉強会を行うなど情報共有に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表の方やご家族、又は地域包括支援センターの方々の感想や意見を取り入れ、サービス向上に努めている	地域の方や市・地域包括支援センターの職員、家族、事業所職員などが参加して、2か月毎に開催されている。現況報告と共に意見・情報交換の場としてサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者(ご家族)及び職員皆が幸せになれるよう、心あるサービスを提供するために、弱者の立場に立った問題点について相談解決出来るよう努めている	様々な不明点や相談事は速やかに解決し、利用者にとって不利益にならないようにとの思いで、日頃から市との連携を図っている。事業所として協力も惜しまない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7時30分～日没の間は玄関を施錠せず、可能な限り解放感を保っている。又、居室の施錠やベッド柵の取り付け方法等についても細かく指示し、全職員が理解している	日々の実践の中でその都度話し合い、職員の理解と正しい認識の下での支援に努めている。安全面とのバランスに苦慮するところであるが、常に利用者の立場になって考え対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時や入浴時等、体の異変を発見した場合にはもれなく報告させており、その原因を徹底的に追及するよう努めている。又、行事の際においても職員個人の携帯電話等(その他の媒体含む)による撮影及び保存は一切禁止している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて各関係機関との連絡を密にとり、ご本人にとって何が最善であるかについて、複数の関係者による判断を心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り自宅訪問(来所もあるが、ご家族によっては郵送する場合もある)し、懇切丁寧な説明を心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の入居者の様子について、積極的にご家族へ電話連絡する事を心掛けており、いつでも誰でも何でも気軽に意見や要望を聞き入れる機会を設けている	家族からの意見や要望に真摯に対応したいとの思いから、今年度「接客チェックシート」が作成されており、より確かな要望の汲み上げと対応がなされている。職員にとっては情報共有と見直しの機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットリーダーには、週に一度の週報提出を義務付けており、現場の問題点等に関する意見や提案が言える機会を設けている。又、それについてその都度回答している	申し送りや実践の中で、その都度話し合い、職員の意見や要望に耳を傾けるようにしている。日頃から言いやすい職場環境となっており、管理者からは回答と細やかなアドバイスがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「チームワーク(尊敬・思いやり・協調性)」を第一に掲げて採用・教育しており、一番力を注いでいる項目である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な職員に対しては、必要な時期に必要な研修を受講できるよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	採用時研修において、他事業所に研修の依頼をしているため、当該事業所の職員との交流は個人的に行われている。又、交流の場があれば可能な限り参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お世話」ではなく「寄り添う」という気持ちを忘れないよう取り組んでいる。又、お互いが「有難う」と言える関係を構築するよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活支援方法については、常にご家族と相談しながら共に答えを探し出すよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り知人の面会をご家族にも要望している。又、定期的に自宅への外出及び外泊なども合わせてお願いしている	入居時に今までの生活や嗜好などを詳細に聞き取るようにしており、家族の協力も得ながら、馴染み関係の継続に努めている。年賀状を作って頂き、キーバソンへ毎年送っている。友人の来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人、我々健常者でも困難なことではあるが、可能な限り性格などを考慮した上で協調性を持って生活出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される場合であっても、今後(病院や他施設、又は自宅)についていつでも相談に応じる旨を伝え、実際に退居後の相談に応じているケースもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人が何を望んでおられるのか、日々の言動や行動を観察し、過ごしやすくなるよう配慮している	言葉で訴える方が少なくなっているが、何気ない一言を受け止めて、その思いを汲み取るようにしている。家族からの情報も得ながら、必要であれば介護計画にも織り込み、思いに添った支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人面接時(困難であれば入居後の場合もある)に、可能な限りご自宅へ出向いて生活空間を拝見し、入居後の生活支援に役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に一日の経過記録を作成し、主な出来事(面会や外出、レクリエーション等の内容など)について全ての勤務者が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の希望と実際のご本人の日々の生活の様子を照らし合わせ、問題点を発見することによって現状に即した介護計画が作成出来ている	入居前のカンファレンスを十分に行い、その後の状態の変化に応じて、職員や家族の意見を取り入れたプランの見直しをしており、現状に即した計画作成がなされている。サービス内容は具体的に詳細に記述されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の経過記録を作成し、情報の共有を行っている。又、その中からの気付いた問題点等については、今後の介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「自由」をモットーに生活支援しているため、型にはめられたサービスではなく、常にその場に合った柔軟な対応が出来るよう工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(地域マラソン応援、子供神輿応援他)に参加可能なレベルの入居者については、積極的に社会参加を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の選択(普段のかかりつけ医及び入院時)については、入居時にご家族に対して懇切丁寧に説明し、ご家族の納得がいくよう心掛けている。又、体調管理については普段からご家族と連絡を密にしている	2か所の医療機関から、2週間に1回の往診があり、利用者はどちらかの医療機関をかかりつけ医としている。協力歯科医もあり、医療連携体制のもと、24時間の医療面での安心が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調については、「いつもとは様子が違う」という気づきを大切にしよう徹底しており、異変が生じた場合には24時間看護師と連絡を取り合って適切な処置を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を中心に、普段からコミュニケーション作りを心掛けており、入居者が入院となった場合でも何でも相談できる関係を構築できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年月が経つとレベルも変わることを常にご家族には伝えており、実際に重度化(又はその予兆)となった場合であっても、当事業所としての役割を懇切丁寧に説明するよう心掛けている	入居前に今後予測できることを含めて、十分に家族と話し合うようにしており、看取り指針に沿った同意書を頂いている。状態の変化に応じてその都度話し合い、事業所として出来る限りの対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段の生活の中で起こりうる事故や急変時の対応方法について、看護師を中心に定期的に研修を行っている。又、定期的に消防の方を招いて講習等を行うよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、年2回の防災訓練を実施している。又、地域代表の方を通して地域の方々にも協力をお願いをしている。又、消防の方を招いて講習等を行うよう努めている	年に2回の防火避難訓練を実施しており、地域の方の参加もある。市の防災マニュアル作成に関わり、今後は地元も含めた市全体の災害対策にも協力していくことが大切であると思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「高齢者への尊厳」については、当事業所として一番大切にしているところであり、言葉の選択や声の質及びトーンについても、時と場所を選んで使用するよう努めている	利用者一人ひとりを尊重した、丁寧な対応を心がけている。言葉遣いは勿論のこと、声の大きさやトーンにも配慮したそれぞれの場面に応じた、穏やかな対応がなされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には食事の時間以外は自由に自己決定できるよう支援している。但し、共同生活であるため、他者に対して迷惑行為となる内容であればご本人に相談するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の24時間と職員の24時間は異なるということを職員に徹底し、急ぐことなくご本人のペースに合わせた支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分によって衣類を選択できるよう支援し、女性の方にはお化粧をする機会を設けるなど工夫している。又、朝夕は必ず更衣して頂き、人として最低限の身だしなみができるよう心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成時、入居者の希望も反映できるよう心掛けている。又、お手伝いが可能な方については、簡単な準備や配膳・下膳及び食器洗い等をお願いしている	ユニット毎に利用者の希望も取り入れた、手作りの家庭料理が提供されている。買い出しは利用者の外出を兼ねて、一緒に出掛ける機会ともなっており、それぞれの出来ることを手伝っている。	高齢化する利用者にとって食事は、暮らしの中で大きな位置をしめるように思う。献立にも変化を持たせ、季節感を大切に、食べる楽しみがいつぱいの支援の継続を、今後も期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に、毎食の摂取量(主食・副食・水分量)を記録に残し、異変の早期発見に努めている。又、病気(糖尿病等)による摂取制限等についても、医師や看護師の指示を受けて実践している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯又は義歯によって口腔ケア方法も異なるため、個々の支援方法を一覧にして徹底している。又、義歯については定期的な洗浄(洗浄剤使用)を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはポータブルトイレは使用せず、可能な限りトイレまで往復するように心掛けている。又、入居者によっては定期的にトイレの声掛けをすることにより、失敗の予防を実践している	一人ひとりの排泄の状態に沿った、声かけや誘導を行っており、トイレでの排泄支援や自立に努めている。トイレ内は明るく清潔で使用しやすい。現在ポータブルトイレを使っている利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘の方については、常に医師と相談しながら飲食物や一定量の運動を取り入れるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理矢理とならぬよう、入浴希望の有無については、必ずご本人に確認して行っている。又、拒否が強い方には清拭等に切り替えるなど工夫している	希望を尊重しながら、一日置きの入浴を目処にしている。状態変化に対応できるように、シャワーキャリーを導入しており、利用者に安心と入浴の楽しさを感じて頂ければと思っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間、又は昼寝に至るまで基本的には自由としている。又、可能な限り規則正しい生活を送るために、声掛けの時間は決めて実践している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となって管理している。又、ローテーション勤務であっても全ての職員が把握できるようチェック体制を設けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動は、強制的にならぬようご本人の意思を尊重して取り組んでいる。又、個別に合った楽しみごとを探し出すよう日々努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設内に閉じこもるのではなく、可能な限り外の空気に触れるよう心掛けている。又、食材の買い出し時にも、必ず入居者と同行するよう徹底している	日々の周辺への散歩や、年間行事として遠足や花見、紅葉狩りなどを実施している。ユニット毎に数回に分けて出かけているが、マンツーマンで対応することもある。外出時は楽しい外食の機会ともなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所に一括管理しているが、希望に応じて一定のお小遣いをご本人が所持することにも配慮している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じた手紙については、職員と一緒に作成するなど取り組んでいる。又、電話に関しては帰宅願望に配慮しながら、可能な限りご本人やご家族の希望を優先するよう努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての空間について、可能な限り自然体を大切に心掛けている。又、季節に応じた飾り付けなど、居心地のよい空間となるよう工夫している	リビングは日当たり良く、掃除の行き届いた清潔で明るい空間となっている。ゆったりしたソファやゲーム機が置かれ、雑誌がいつでも目を通せるように手の届くところに配置されている。利用者が寛げる場が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一か所集中ではなく、複数の居場所に複数の小集団が形成されることをイメージした空間となっており、気分によって居場所が変えられるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の家庭訪問にて、ご本人の馴染みの備品及び物品についてご家族に確認し、入居時には可能な限り持ち込んで頂くよう徹底している	室内は明るく、大きな窓から外の景色が楽しめる。使い慣れたタンスや椅子が持ち込まれ、それぞれの個性を感じる居場所となっている。状態に応じて畳を敷いている方もあり、安全への配慮を感じる	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に頻繁に使用する場所については、入居者独りでも安全に使用できるよう配慮している。又、日々の業務においてリスク管理(危険度のチェック)を徹底している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390800047		
法人名	有限会社 きび薬品		
事業所名	グループホームきのじょう		
所在地	岡山県総社市北溝手55-1		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosoCd=3390800047-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、自然に囲まれた場所に立地しており、入居者様にとって落ち着ける環境であると考えています。我々のモットーは高齢者の尊厳であり、職員と入居者が慣れ合いにならぬよう言葉遣いには十分注意しながら関わりを持っています。一日の流れはご自分で決めて頂き、自分がやりたいことを自由にできる空間づくりを目指しています。レクリエーションも強制的には行わず、職員は寄り添いながらアドバイスをしたり一緒に楽しんだり、家族同様のお付き合いを心掛けています。「自分の親、又は自分自身が住んでみたい」と思えるような事業所を目指し、一つ一つの問題点が勉強と思って努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく、穏やかな生活が出来るよう、常にご本人やご家族の立場に立って支援するよう心掛けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の年間行事への参加や、地域代表の方との普段のお付き合いを心掛けている。又、ご近所様から季節の風物詩などを頂戴したりしながら、職員・入居者共々交流を大切にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて、地域代表の方やご家族等に対して、専門的な勉強会を行うなど情報共有に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表の方やご家族、又は地域包括支援センターの方々の感想や意見を取り入れ、サービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者(ご家族)及び職員皆が幸せになれるよう、心あるサービスを提供するために、弱者の立場に立った問題点について相談解決出来るよう努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7時30分～日没の間は玄関を施錠せず、可能な限り解放感を保っている。又、居室の施錠やベッド柵の取り付け方法等についても細かく指示し、全職員が理解している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時や入浴時等、体の異変を発見した場合にはもれなく報告させており、その原因を徹底的に追及するよう努めている。又、行事の際においても職員個人の携帯電話等(その他の媒体含む)による撮影及び保存は一切禁止している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて各関係機関との連絡を密にとり、ご本人にとって何が最善であるかについて、複数の関係者による判断を心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り自宅訪問(来所もあるが、ご家族によっては郵送する場合もある)し、懇切丁寧な説明を心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の入居者の様子について、積極的にご家族へ電話連絡する事を心掛けており、いつでも誰でも気軽に意見や要望を聞き入れる機会を設けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットリーダーには、週に一度の週報提出を義務付けており、現場の問題点等に関する意見や提案が言える機会を設けている。又、それについてその都度回答している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「チームワーク(尊敬・思いやり・協調性)」を第一に掲げて採用・教育しており、一番力を注いでいる項目である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な職員に対しては、必要な時期に必要な研修を受講できるよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	採用時研修において、他事業所に研修の依頼をしているため、当該事業所の職員との交流は個人的に行われている。又、交流の場があれば可能な限り参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お世話」ではなく「寄り添う」という気持ちを忘れないよう取り組んでいる。又、お互いが「有難う」と言える関係を構築するよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活支援方法については、常にご家族と相談しながら共に答えを探し出すよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り知人の面会をご家族にも要望している。又、定期的に自宅への外出及び外泊なども合わせてお願いしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人、我々健常者でも困難なことではあるが、可能な限り性格などを考慮した上で協調性を持って生活出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される場合であっても、今後(病院や他施設、又は自宅)についていつでも相談に応じる旨を伝え、実際に退居後の相談に応じているケースもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人が何を望んでおられるのか、日々の言動や行動を観察し、過ごしやすくなるよう配慮している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人面接時(困難であれば入居後の場合もある)に、可能な限りご自宅へ出向いて生活空間を拝見し、入居後の生活支援に役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に一日の経過記録を作成し、主な出来事(面会や外出、レクリエーション等の内容など)について全ての勤務者が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の希望と実際のご本人の日々の生活の様子を照らし合わせ、問題点を発見することによって現状に即した介護計画が作成出来ている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の経過記録を作成し、情報の共有を行っている。又、その中からの気付いた問題点等については、今後の介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「自由」をモットーに生活支援しているため、型にはめられたサービスではなく、常にその場に合った柔軟な対応が出来るよう工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(地域マラソン応援、子供神輿応援他)に参加可能なレベルの入居者については、積極的に社会参加を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の選択(普段のかかりつけ医及び入院時)については、入居時にご家族に対して懇切丁寧に説明し、ご家族の納得がいくよう心掛けている。又、体調管理については普段からご家族と連絡を密にしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調については、「いつもとは様子が違う」という気づきを大切にしよう徹底しており、異変が生じた場合には24時間看護師と連絡を取り合って適切な処置を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を中心に、普段からコミュニケーション作りを心掛けており、入居者が入院となった場合でも何でも相談できる関係を構築できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年月が経つとレベルも変わることを常にご家族には伝えており、実際に重度化(又はその予兆)となった場合であっても、当事業所としての役割を懇切丁寧に説明するよう心掛けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段の生活の中で起こりうる事故や急変時の対応方法について、看護師を中心に定期的に研修を行っている。又、定期的に消防の方を招いて講習等を行うよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、年2回の防災訓練を実施している。又、地域代表の方を通して地域の方々にも協力をお願いをしている。又、消防の方を招いて講習等を行うよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「高齢者への尊厳」については、当事業所として一番大切にしているところであり、言葉の選択や声の質及びトーンについても、時と場所を選んで使用するよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には食事の時間以外は自由に自己決定できるよう支援している。但し、共同生活であるため、他者に対して迷惑行為となる内容であればご本人に相談するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の24時間と職員の24時間は異なるということを職員に徹底し、急ぐことなくご本人のペースに合わせた支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分によって衣類を選択できるよう支援し、女性の方にはお化粧をする機会を設けるなど工夫している。又、朝夕は必ず更衣して頂き、人として最低限の身だしなみができるよう心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成時、入居者の希望も反映できるよう心掛けている。又、お手伝いが可能な方については、簡単な準備や配膳・下膳及び食器洗い等をお願いしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に、毎食の摂取量(主食・副食・水分量)を記録に残し、異変の早期発見に努めている。又、病気(糖尿病等)による摂取制限等についても、医師や看護師の指示を受けて実践している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯又は義歯によって口腔ケア方法も異なるため、個々の支援方法を一覧にして徹底している。又、義歯については定期的な洗浄(洗浄剤使用)を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはポータブルトイレは使用せず、可能な限りトイレまで往復するように心掛けている。又、入居者によっては定期的にトイレの声掛けをすることにより、失敗の予防を実践している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘の方については、常に医師と相談しながら飲食物や一定量の運動を取り入れるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理矢理とならぬよう、入浴希望の有無については、必ずご本人に確認して行っている。又、拒否が強い方には清拭等に切り替えるなど工夫している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間、又は昼寝に至るまで基本的には自由としている。又、可能な限り規則正しい生活を送るために、声掛けの時間は決めて実践している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となって管理している。又、ローテーション勤務であっても全ての職員が把握できるようチェック体制を設けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動は、強制的にならぬようご本人の意思を尊重して取り組んでいる。又、個別に合った楽しみごとを探し出すよう日々努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設内に閉じこもるのではなく、可能な限り外の空気に触れるよう心掛けている。又、食材の買い出し時にも、必ず入居者と同行するよう徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にて一括管理しているが、希望に応じて一定のお小遣いをご本人が所持することにも配慮している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じた手紙については、職員と一緒に作成するなど取り組んでいる。又、電話に関しては帰宅願望に配慮しながら、可能な限りご本人やご家族の希望を優先するよう努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての空間について、可能な限り自然体を大切に心掛けている。又、季節に応じた飾り付けなど、居心地のよい空間となるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一か所集中ではなく、複数の居場所に複数の小集団が形成されることをイメージした空間となっており、気分によって居場所が変えられるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の家庭訪問にて、ご本人の馴染みの備品及び物品についてご家族に確認し、入居時には可能な限り持ち込んで頂くよう徹底している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に頻繁に使用する場所については、入居者独りでも安全に使用できるよう配慮している。又、日々の業務においてリスク管理(危険度のチェック)を徹底している		